

日本臨床外科学会 国内外科研修報告

東北大学大学院医学系研究科消化器外科・生体調節外科での国内外科研修を終えて

大田市立病院外科
岸 隆

私は、島根県大田市に位置する大田市立病院で外科医として従事している、岸といいます。この度2021年11月1日から11月12日までの12日間、日本臨床外科学会主催の国内外科研修に参加させていただきました。国内外科研修プログラムは、若手外科医を対象に、国内の他施設で研修を行うことで、他施設での手術手技や診療形態に触れて新たな知見を得ることや、他施設の医師と交流することでの刺激を得ることを目的とした研修です。7つの専門分野毎に受け入れ可能施設が決められており、希望する施設を選択させていただくことになっていました。私は同年に外科専門医を取得し、今後はサブスペシャリティを選択して専門領域の研修を積む予定でもありましたので、以前より興味があった肝胆膵外科領域での研修を行いたいと考え、肝胆膵コースで東北大学病院総合外科での研修を選択させていただきました。以前より東北大学の肝胆膵外科の活躍は伺っていたことと、自身の上司から東北大学での研修を推奨いただいたことが理由でありました。研修予定期間直前の2021年9-10月はCOVID-19の第5派が流行している時期であり、東北大学が位置する宮城県も緊急事態宣言が出されていたことから、研修自体が危ぶまれましたが、タイミング良く感染が収まり、緊急事態制限が解除されて研修可能となったことは非常に運が良かったと思えました。

東北大学病院は、宮城県の県庁所在地であり仙台市に位置し、1,308床の病床数を有する特定機能病院になります。その中でも海野教授が率いる総合外科は、肝胆膵、食道、移植肝臓、乳腺、胃、血管、甲状腺、減量外科の各分野に分かれて診療を行っており、年間1,616件の手術を行う、東北大学病院としても多くの手術件数を占める巨大な医局でした。医療スタッフも100人を超える大所帯であるそうで、診療業務および手術のみならず、研究業務に関しても盛んに行われているようでした。

私は、11月1日より肝胆膵外科チームに配属し、カンファレンスや病棟業務、手術に参加させていただきました。短期間での研修でもあり、カルテの使用や診療業務補助もできないため、忙しそうに働かれるスタッフの皆様には申し訳ないと感じつつも、集中して手術見学等に従事することが可能でした。肝胆膵外科チームはAとBのチームに別れ、それぞれ高難易度手術を週2回、審査腹腔鏡など他手術を規定の手術日に行っていました。私の配属されたAチームは膵臓および腹腔鏡を中心に行っていましたが、自身の興味がある分野でもあり、アプローチ方法や細かな手技を実際に解説付きで見学できるのは非常に勉強になりました。自施設の手技と比較することで、よりそれぞれの手技の理由や利点を考えることができ、今後の手術時に生かしていければと思います。肝胆膵外科は2チームあり、肝胆膵外科領域の高難易度手術も並列で行われていることからいろいろな症例を見学できました。また、肝胆膵外科の手術がない日は他領域の手術を見学させていただき、主に胃および下部消化管チームを見学していました。各専門分野のエキスパートの手術やロボット支援手術も見学でき、若手外科医の執刀時には、その指導も聞くことができたので、自身が指導を受けながら執刀している時とは異なり、冷静な状況で手技の考え方や剥離の目安などの細かな部分まで聞くことができたため、非常に勉強になりました。その中でも、移植外科チームの肝移植を見学できたことは最も運が良かったと考えます。移植前カンファレンスより参加させていただき、recipientからの摘出、グラフト再建、donorへの移植まで全ての行程を見学させていただきました。全ての手技に細心の注意が必要なこともそうですが、多段階であること

から、1チームでは困難であり、チーム医療となることも実際見てみないとわからないことであり、感銘を受けました。自施設がある、島根県では肝移植は現在行われていないことから、今回見学をできたことは大きな経験であったと考えます。

病院内の研修でも十分な勉強となりましたが、上級医および同年代の外科医の先生方からお話をする機会があり、東北圏域での診療や研究のお話を伺うことができました。留学の経験談は、いずれ自身も国外留学等を行えればと考えていたこともあり、実体験に基づいた良い話や悪い話は、留学等の意欲につながることができました。緊急事態宣言が解除された間際でありましたが、少人数での食事等に招待していただき、感謝を感じるばかりでありました。

本研修によってhigh volume centerである東北大学病院総合外科の診療および手術を経験することができ、自身の施設との違いや実際に導入したいと思うことを多数経験でき、新たな知見が得ることができました。また、肝胆膵外科領域で活躍される先生方のお話を伺うことができ、自身の展望への参考にでき、サブスペシャリティ決定の最後の後押しとなることもできました。今回は短期間の研修かつ診療補助しかできない状況でしたが、可能であればいつの日か、スタッフの一員として長期間の研修に覗えればとも感じました。最後になりましたが、研修プログラムを主催していただいている日本臨床外科学会の諸先生方、研修を受け入れていただきました東北大学総合外科の海野先生、研修担当の水間先生、田中先生、東北大学総合外科の先生方、皆様に感謝申し上げます。今後も国内外科研修プログラムが継続することを期待します。